

INALCO Université de Paris CNRS IFRAB Institut National des Langues et Civilisations Orientales

東京外国語大学・2022年9月9日
2022年度 第1回研究会 学習者言語分析 I : 音声特徴と語彙特徴

日本語学概説書の翻訳から見える 日本語学とフランス言語学の接点

デロワ中村弥生
フランス東アジア研究所・仏国立東洋言語文化大学（イナルコ）
YAYOI NAKAMURA-DELLOYE
IFRAE, INALCO

『日本語概説』
朝倉書店、2010
沖森卓也(編)、阿久津智、井島正博、木村一、木村義之、笹原宏之

『基礎日本語文法 改訂版』
くろしお出版、1992
益岡隆志、田窪行剛

Précis de linguistique japonaise
Ophrys, 2019
Laurence Labrune (dir.), Jean Bazantay, Yayoi Nakamura-Delloye

Grammaire fondamentale du japonais
Armand Colin, 2022
Yayoi Nakamura-Delloye

日本語概説
基礎日本語文法 一改訂版

基礎日本語文法 一改訂版

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 2

本日の内容

第1部 フランスにおける日本語研究

1. 自己紹介：自然言語処理から日本研究へ
2. フランスにおける日本研究、日本語研究

第2部 翻訳から見てくること

3. 学術背景の相違：言語学の下位分野
4. 文法用語を訳すということ

結語

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 3

自己紹介

自然言語処理から日本研究へ

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 4

2003年 仏国立東洋言語文化大学（イナルコ）自然言語処理 DEA取得
2007年 パリ第7大学大学院 理論・記述・コンピューター言語学 博士号取得
Lattice研究室、指導教授：Catherine Fuchs


Alignement automatique des textes parallèles français-japonais
日仏パラレルテキストの自動アライメント

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 5

2003年 仏国立東洋言語文化大学（イナルコ）自然言語処理 DEA取得
2007年 パリ第7大学大学院 理論・記述・コンピューター言語学 博士号取得
Lattice研究室、指導教授：Catherine Fuchs

Alignement automatique des textes parallèles français-japonais
日仏パラレルテキストの自動アライメント

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 6



私が現代日本文法研究の父と考えている学者が二人ある。一人はJapanese Language Patterns (1966年上智大学出版)の著者Anthony Alfonso氏、もう一人は、言うまでもなく、故三上章氏である。

「序」久野暉


三上章 (1903-1971)
『現代語法序説』1953

丙ヲ 乙ニ 甲ガ
紹介シタ

三上章
|
寺村秀夫
|
「新記述派」(金水1997)
仁田義雄
益岡隆志
南不二雄
久野暉

三上章論文集
幻の論文集
限定増刷

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 7




三上章 (1903-1971)
『現代語法序説』1953

丙ヲ 乙ニ 甲ガ
紹介シタ

donne
Alfred le livre à Charles

Alfred donne le livre à Charles



Lucien Tesnière (1893-1954)
Esquisse d'une syntaxe structurale. 1953

テニエールの論文は、鶴田先生の大著や私の小著「現代語法序説」と同年の五十三年であり、我々ははからずも海外に知己を得た次第であった。「主語と述語」1958

最近L. Tesnièreは「草案」(Esquisse d'une Syntaxe Structurale, 1953)において[...]、主語「甲ガ」も「乙ヲ」「丙ニ」と同様に補語にほかならないと結論している。そしてそれを意外な結論だと言っている。これは私にも少し意外であった。西洋の主語はいま少し優遇しておきたい。

『現代語法新説』1955
→ テスニエール

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 8



Pierre Le Goffic

Mots en « Kw- » (whワード)
疑問語・不定語・従属接続語
の関係の普遍性

Élément extra-prédicatif
(述部外成分)

Michel Charolles (introduceur du cadre de discours)
Bernard Combettes (constructions détachés)

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 9


2003年 仏国立東洋言語文化大学大学院 自然言語処理 修士号取得

2007年 パリ第7大学大学院 理論・記述・コンピューター言語学 博士号取得

2007年 パリ第10大学 言語学部 ATER

2008-2010年 ポスドク研究員

- ピカルディー大学 社会言語学研究室
ピカルディー語(ロマンス語-オイル語系)
コーパス構築
- 仏国立情報学自動制御研究所 (INRIA)



Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 10

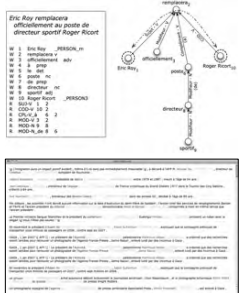
2003年 仏国立東洋言語文化大学大学院 自然言語処理 修士号取得

2007年 パリ第7大学大学院 理論・記述・コンピューター言語学 博士号取得

2007年 パリ第10大学 言語学部 助教

2008-2010年 ポスドク研究員

- ピカルディー大学 社会言語学研究室
- 仏国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
情報抽出 (AFP通信)
固有表現意味関係構文パスの検出、
構文パスを抽出パターンとして用いた
固有表現の自動抽出



Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 11

2003年 仏国立東洋言語文化大学大学院 自然言語処理 修士号取得

2007年 パリ第7大学大学院 理論・記述・コンピューター言語学 博士号取得

2007年 パリ第10大学 言語学部 助教

2008-2010年 ポスドク研究員 (ピカルディー大学 → 仏国立情報学自動制御研究所)

言語学 → 日本研究 (日本学)

2011年 パリ・ディドロ (第7) 大学 東洋言語文化学部日本学科 講師

2013年 仏国立東洋言語文化大学 (イナルコ) 日本学部 准教授

Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO) 12

フランスにおける 日本研究・日本語研究

勤務校の紹介

国立東洋言語文化大学 日本学部

- ・ヨーロッパ最大日本学教育・研究機関
- ・学部課程登録 800名（1学年400、2学年250、3学年150）
- ・修士課程登録 100名
- ・教員 約50名（専任 教授7名、准教授13名）



- 1669年 コルベールによる言語青年学校 (École des jeunes de langues) 設立
- 1795年 東洋言語専門学校 (École spéciale des langues orientales)
- 1853年 黒船来航
- 1863年 日本語授業開講
- 1868年 明治元年
- 1868年 正式な日本語講座開設 初代教授 レオン・ド・ロニー

フランス東アジア研究所 (IFRAE, CNRS)

人文科学・社会科学分野の広範囲な学問領域を東アジアの様々な地域の
専門家が協力し、学際的・比較論的に研究

- ・ 中国、韓国、北朝鮮、日本、モンゴル、ネパール、台湾、チベット、ベトナム、
など
- ・ 研究者 約50名
- ・ 博士課程学生 約70名



フランスにおける日本語研究史 萌芽期

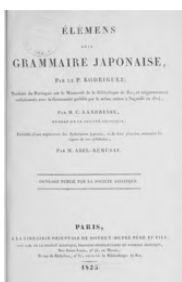


杉本つとむ『西洋人の日本語発見—外
国人の日本語研究史』講談社

山東功『日本語の観察者たち—宣教師
からお雇い外国人まで』岩波書店（そ
うだったんだ！日本語シリーズ）



C. Landresse



Éléments de la grammaire
japonaise, 1825

杉本つとむ（前掲書）

『ホフマンの日本語研究で、よく参照しているものに、ロドリゲス『日本小文典』の仏訳本「Éléments de la grammaire japonaise, 1825」がある。これはすでに上でものべたように、M.C.ランドレスとレミュザによって翻訳されたものである。研究者により、全訳ではなく改編のみられること、また訳に難点を指摘する向きもあるものの、本書出現の歴史的意思是決して過小評価できない。私見ではヨーロッパにおける日本語研究は、ここに一原点ありといえるのではないかと思う。」



ロドリゲス『日本小文典』（1640）
仏国立図書館所蔵1720年写本

Léon Pagès



Dictionnaire japonais-français
(1868)

『日葡辞書』（1603-1604）

「この仏訳版はヨーロッパの日本語研究者にも大いなる福音をもたらしたと思われる（現代では日本の国語国文学者に恩恵を与えている）。

言語の学習や研究には文典と辞書は必要不可欠であるから、この両方が日本語学のためにそろったことになる。」

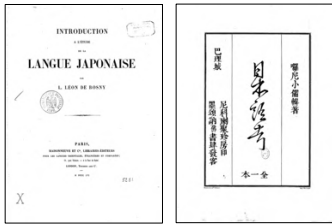
杉本つとむ（前掲書）



『日本文法試論/稿本』（1864）
クルチウス原本（1855）
ホフマン補訂版（1857）からの仏訳

Léon de Rosny

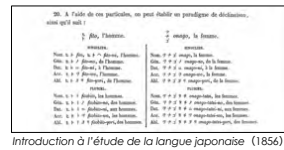
日本語講座初代教授 (1868)



Introduction à l'étude de la langue japonaise
『日本語考』(1856)

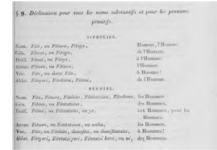


Léon de Rosny



Introduction à l'étude de la langue japonaise (1856)

「たとえばく」を例にしてあげている名詞の部では<格変化>(déclinaison)として<Nom. ヒト、ヒトハ/ Gén. ヒトノ/Dat. ヒトニ/Acc. ヒトヲ/Abl. ヒトヨリ>とみえる。<主格~奪格>とラテン語、フランス語などをベースにそのまま日本語にあてはめたにすぎないわけである。これまでみてきたヨーロッパの日本語学者の見解と同じと考えてよからう。」(杉本、前掲書)



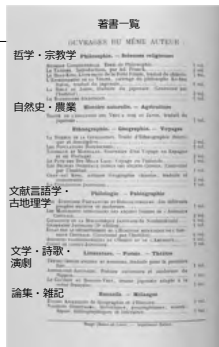
ロドリゲス『日本小文典』(1640)
ランドレス仏訳(1825)



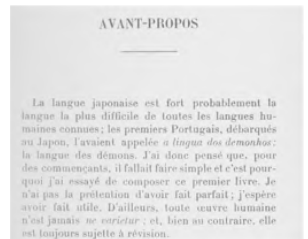
西洋人の日本語学

広範囲なアジア研究を行う東洋学者

「ロニーは、シナ語学者ジュリアンに師事したので、フランスの伝統的シナ学、レミューザージュリアン-ロニーといった学統に立っている。したがって、出発点は中国語であるが、これを基礎にして日本語学習や研究に及んだという点、西洋人の日本語学の一つのパターンを想定することができる。」(杉本、前掲書、p.289)



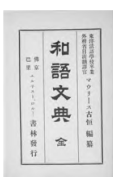
Joseph Dautremet



Le premier livre de japonais, 1916

Maurice Courant

Grammaire de la langue japonaise parlée
『和語文典』1899



« [...] la langue japonaise est très logique : presque toute sa syntaxe, et la syntaxe y joue un grand rôle, se ramène à un principe. »

言語学としての日本語研究へ

Catherine Garnier (カトリヌ・ガルニエ)

« Two centuries of Japanese linguistics in France: 1825-1995 ». Cipango, 2013, No.2.

Disponible en ligne : <https://journals.openedition.org/cjs/300>

- 1948年以降 言語学研究の出現
 - Charles Haguenauer (シャルル・アグノエル) 比較言語学的研究
- 1970年代 文法記述から言語学研究への転換
 - Hubert Maës (ユベール・マエス) 日本語研究グループ
- 1978年以降 日本学および言語学の二分野における日本語研究の確立

現在：2つの活動の場

1. 日本研究（東洋研究）
2. 一般言語学

1. 日本学／日本研究学界

⇒ アジア研究・東洋学

学際的な場で伝わりやすいテーマ

→ 言語哲学、歴史的変遷、社会言語学的現象

- 「主語」という概念、用語
→ ロラン・バルト『表徴の帝国 (L'Empire des signes)』
- 言語の主観性

2. 一般言語学界

言語だけでなく文化・一般的知識を共有していない人に伝える難しさ



学術背景の相違 言語学の下位分野 翻訳から見えてくること

『日本語概説』の目次

第1章 総論	Ch. 1 Généralités
第2章 音韻・音声	Ch. 2 Phonétique; phonologie
第3章 文字・表記	Ch. 3 Écriture et transcription
第4章 語彙	Ch. 4 Le lexique
第5章 文法	Ch. 5 Grammaire
第6章 日本語の諸相	Ch. 6 Questions de linguistique japonaise
第7章 日本語の研究	Ch. 7 Recherche en linguistique japonaise

言語学の下位分野

4. 研究分野の諸相
- (1) 音韻を研究する分野を音韻論、音声を研究する分野を音声学という。
 - (2) 語彙を扱う分野を語彙論、意味に関する研究分野を意味論という。語誌（語史）は語の歴史的な変化を記述するもので、語彙を対象とした場合は語彙史という。
 - (3) 文法を研究対象とする分野を文法論（または文法学）、文章、談話、文体を対象とするものをそれぞれ文章論、談話論、文体論と称している。
 - (4) 文字を研究する分野は文字論（または文字学）と呼ばれる。
 - (5) 地域・性別・年齢・職業など異なる社会集団の違いや、場面に応じて言葉に違いのある現象を位相とらえ、その違いが現れた語を位相語という。また、人間社会のさまざまな現象を言語と関係づけて研究する分野が社会言語学である。
 - (6) 言語の歴史的な研究分野には、特定の時代・時期を対象とするもの、時間の流れに沿って言語現象を記述しようとするものなどがある。
 - (7) 2つ以上の言語を、系統とは無関係に比べてその異同を明らかにしようとするのが対照言語学である。



形態論	語構成	→	語彙論
意味論	語	→	語彙論
統語論	文	→	文法
	活用	→	文法

言語記述区分

第1章 総論		Ducrot & Schaeffer (1995) <i>Nouveau dictionnaire encyclopédique des sciences du langage</i> , p.119
第2章 音韻・音声	} 1	Composants de la description linguistique 1. Les moyens matériels d'expression (prononciation, écriture) 2. La grammaire a. La morphologie b. La syntaxe 3. Le dictionnaire
第3章 文字・表記		
第4章 語彙 3		
第5章 文法 2		
第6章 日本語の諸相		
第7章 日本語の研究		

文法用語

翻訳から見えてくること

用語を訳す = 概念の位置付け + 言語間体系対照

寺村秀夫「名詞修飾部の比較」『日英語比較講座第2巻文法』1980

日本語と英語のようにかなり体質の異なる言語の比較対照をするときには、いうまでもないことだが、両語に対して同じ文法用語を使うことによほど慎重でなければならない。

柴谷武「言語類型論と対照研究」『対照言語学』2002

他の言語で認められる文法範疇がその言語に存在するのかどうかは、当該言語において独自に検証されなければならない。

用語を訳す = 概念の位置付け + 言語間体系対照

Barbara Cassin

Présentation. *Vocabulaire européen des philosophies (VEP) : dictionnaire des intraduisibles*, Éditions du Seuil / Dictionnaire Le Robert, 2019

[L]e *Vocabulaire des institutions indo-européennes d'Émile Benveniste est l'ouvrage, pluraliste et comparatiste, qui nous a servi de modèle : pour trouver le sens d'un mot dans une langue, il met au jour les réseaux dans lesquels il s'insère et cherche à comprendre comment un réseau fonctionne dans une langue en le rapportant aux réseaux d'autres langues.*

ある言語におけるある語の意味を同定するために、その語が含まれるネットワークを把握し、それぞれのネットワークがその言語においてどのように機能しているかを他の言語の複数のネットワークと対照することにより理解する。

テーマ 1

「語」

語

- ①言葉。言語。もの言い。
- ②成句。文句。ことわざ。
- ③単語をいう。
- ④数学で、有限個の記号の列。
- ⑤電子計算機の記憶装置が、演算装置や制御装置とやり取りする単位情報。
『精選版日本国語大辞典』（例文と④⑤の語義の詳細は省略）

人間は体験したり想像したりする、モノ・状態・性質・動作・数量などの一つ一つに「名前」を付け、世界の一部分を言葉を使って写し取って、他の何かと区別している（4.1.2項）。その「名前」を語、または単語という。

『日本語概説』六四頁

語

- ①言葉。言語。もの言い。
- ②成句。文句。ことわざ。
- ③単語をいう。
- ④数学で、有限個の記号の列。
- ⑤電子計算機の記憶装置が、演算装置や制御装置とやり取りする単位情報。
『精選版日本国語大辞典』（例文と④⑤の語義の詳細は省略）

1. 和語、漢語、外来語、混種語、自立語、付属語
2. 日本語、外国語、男性語、女性語、敬語
3. 主語、補充語、述語、修飾語、被修飾語

語

国学における用語

- 単語 = 「詞」「言」→「名詞」「体言」

明治以降

大槻文彦『廣日本字典別記』1897

- 「言（こと）」→「単語」
コトニイヘル「単語」ハ、英語ノWordニ當ル、「言（ゲン）」ノ一字ニテ、
「こと」トノミ訓マハ、正ニ當ラムカ、然レトモ、今ハ、姑ク単語トセリ。
- 「主語」「説明語 (predicate)」「客語」「修飾語」→「枕詞」
- 「接頭語」「接尾語」

語

明治以降

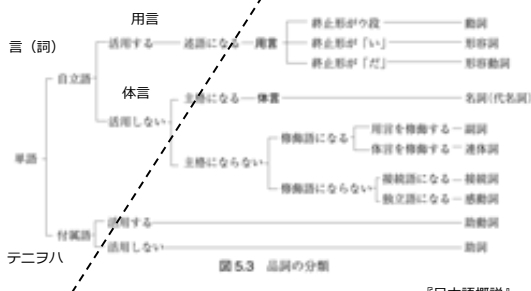
- 山田孝雄：単語 = 「語」→「関係語」「観念語」
- 橋本進吉：単語 = 「語」←「詞」「辞」の上位概念
- 松下大三郎：単語 = 「詞」→「概念詞」「主観詞」
文の成分 = 「語」→「主語、叙述語、修用語、連体語」

語彙レベル = mot (語)
統語レベル = élément (成分)

テーマ2

体言・用言

体言／用言



体言／用言

山田孝雄『国語学史要』岩波書店、1935

- 宋学 (Cheng, A. *Histoire de la pensée chinoise*. Le Seuil, 1997)
 体 = 本体 (fondament constitutif)
 用 = 作用・属性 (mise en opération)
- 連歌
 体 = 主体的なもの
 用 = 作用的・属性的なもの
- 文法 → 語の形態変化 (古田2010)
 体 = 動かぬもの
 用 = 動くもの

Substantif (実詞) ← Substance (実体)

- Nom substantif (実体名詞)
- Nom adjectif (形容名詞)

体言 = mot nominal
 用言 = mot variable prédicatif

テーマ3

係り・受け

係り／受け

山田孝雄『日本文学要論』岩波書店、1950
凡そ広く、「係り」といふ語を解すれば、他に關係するといふ意味であるが、さやうに広く解すれば萩原のやうなことにちなり、なほ広くすれば、一切の語は皆他にかゝりあふものであるからすべて係となるといひうべきものである。

- 「受るてにをは」（『詞の八衢』）
- 「詞ノ跡ヲ承テトムルテニヲハ」（『言語四種論』）
- ←→ 「ネガフ心ノナムニツバク」

係り = 立体的な統語関係
受け・続き = 平面的な承接関係

係り／受け

- それぞれの語がどの語と関わっているのかに注目し、それらの関係で文全体の構造を見る = 依存構造
- 鈴木敏の構造分析 = 依存文法（水谷1983）

依存文法

中心となる語 (régissant) → 支配される語 (subordonné)

係り受け

初めに現れる支配される要素 → その依存先を明らかにする

→ CaboCha/南瓜：日本語係り受け解析器 Japanese Dependency Structure Analyzer

係り／受け

品詞分類に必須の判定基準 係る力／受ける力

Van Raemdonck (2012) ← Gustave Guillaume

« incidence » = relation entre un **apport** et son **support** de sens

La plupart du temps, nous choisissons de parler à propos de quelque chose. Ce quelque chose est la base d'un développement plus ou moins long : nous apportons de l'information à propos de ce qui peut être vu comme un support. [...] Cette relation apport-support est l'élément primordial de la communication. Dès lors, pour pouvoir rendre compte de la communication, il nous a semblé essentiel de retrouver sous tous les mécanismes grammaticaux cette même relation apport-support de signification.

係り特性：capacité d'apport

受け特性：capacité en tant que support

テーマ4

連体・連用

連体／連用

『和語説略図』について説明を加えた『活語指南』（1844年）では、活用形を将然言・連用言・截断言・連躰言・已然言・希求（けく）言の6種類に分け、その名称には現代につながるものもある。

『日本語概説』149頁

- 連用 = adverbial → adverbial (副詞の、副詞的な)
- 連体 = adnominal → adjectival (形容詞の、形容詞的な)

形容詞 = 品詞
連体 = 文法機能

テーマ5

形容動詞

形容動詞

形容詞 = qualificatif, mot de qualité

形容動詞 = qualificatif invariable (cf. 連体詞)

Qualificatif : **Adjectifs** démonstratifs, indéfinis, interrogatifs, numériques, possessifs, relatifs

分類上の問題 : 名詞との境界

元気な人、元気のもと、元気がない

→ 名詞 (寺村)

→ 語幹の形態的自立性・文法的非自立性

- 村木新次郎『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ書房
- Yayoi Nakamura-Delloye (2020) Adjectivation et adjectivité en japonais. L'Adjectivité : approches descriptives de la linguistique adjectivale, De Gruyter.

形容動詞

形容詞 = adjectif en -i

形容動詞 = adjectif en -na

形容動詞 (吉澤義則「所謂形容動詞に就いて」1932)

➢ 大槻文彦『廣日本文典別記』1897 (x「語法指南」1889) :

[...]我が形容詞ハAtributive Verbトイフベク、直ニ「形容動詞」ト命名セバ Adjectiveノ譯語ノ形容詞ト混ゼズシテ可ナラム、トモ考フルナリ。

属詞の役割を果たす動詞 (用言) = 現・形容詞 adjectif en -i

➢ 芳賀矢一『中等教科明治文典』1904

語幹+動詞 = 形容動詞 adjectif en -na

テーマ6

とりたて

とりたて

Focus Particles (König 1993, De Gruyter Mouton)

→ Focalisation, mise en relief

「とりたて」について特記すべきは、この文法概念が日本語研究の中から生まれた独自の概念であるという点である。

益岡「はしがき」『日本語の文法2 時・否定ととりたて』2000

日本語は、英語などの西洋語に比べると、主題や取り立てを表す明示的な形式を備え、特に取り立てについては、その形式が豊富である。そのため、主題や取り立ての研究では、例えば、英語を対象にした研究で開発された理論をそのままの形で応用しにくい面がある。日本語については、日本語独自の理論や方法を開発せざるを得ない状況にあるのである。

益岡、野田、沼田「はしがき」『日本語の主題と取り立て』1995

とりたて

とりたてとは、文中のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えることである。

日本語記述文法研究会『現代日本語文法5 第9部とりたて第10部主題』2009

太郎	は	バナナ	だけ	食べた
		肉		
		野菜		
		...		

とりたて



国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」文法Ⅱ：とりたて表現の対照研究



野田尚史 (2015) 『世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性—「する」動詞と「なる」動詞、高コンテキスト言語と低コンテキスト言語の再検討を中心に』『日本語研究とその可能性』蘭学社

限定 Restriction	私だけが知っている。 野菜しか食べない。
極端 Extrême	次の下の名前まで知っている。 挨拶さえしない。
類似 Ressemblance	ババで靴も買った。
反限定 Non restriction	日本料理などより簡単だ。 「病気だ」とも言え。
反極端 Non extrême	電話ぐらいするべきだ。 私などに絶対できない。
反類似 Non ressemblance	平仮名は書ける。

とりたて

Adverbes paradigmatifs (Nølke 1983)

1. *Même, jusque*
2. *Aussi, également, aussi bien que, encore**
3. *Surtout, en particulier, notamment, par exemple, particulièrement, principalement, avant tout, spécialement, essentiellement, entre autre*
4. *Seulement, ne... que..., simplement, juste, uniquement, exclusivement, rien que*
5. *Encore*
6. *Exactement, précisément, justement, juste, au juste, au moins, (tout) au plus*
7. *Presque, à peine, environ, approximativement, quelque N*
8. *Pour ainsi dire, si j'ose dire* (énonciatifs)
9. « Varia »

とりたて

Adverbes paradigmatifs (Nølke 1983)

Sémantiquement, ils introduisent une présupposition sur l'existence d'un paradigme, d'où leur dénomination. L'interprétation d'un énoncé renfermant un tel complément adverbial présuppose en effet que l'énoncé actuel est mis en rapport avec un paradigme d'autres énoncés semblables.

意味的には、これらは、ある範列の存在を前提として生じさせる。範列導入副詞という名称もこの特徴から来ている。このような副詞を含んだ発話、その発話がそれに類似した他の発話の範列と関連づけられたらえて解釈されるのである。



デロフ中村弥生(2011)「『とりたて』の活用から見えてくる品詞・表現機能の連続性—フランス語との対照分析を通して—」『国立国語研究所論集 INJAL Research Papers』第20号。

結び

□ 概説書の翻訳を通して見えてくる日本語学の独自性とフランス語学との接点

□ 翻訳 = 接点の探求 → 言語の普遍性

Irène Tamba

« Ce n'est pas qu'une question de "traduction" terminologique mais de construction d'outils d'analyse grammaticale. »

Qu'est-ce que ça veut dire, la métalangue, si ce n'est pas la traduction ?
On ne peut parler d'une langue que dans une autre langue.

Jacques Lacan, *L'insu que sait de l'une-bévue s'aile à mourre*



千葉県 P R マスコットキャラクター
チーバくん

Merci